

VirtualBoxによる仮想マシン作成 1

2008年09月07日 08時56分05秒

会社の新人さんにエミュレーターを教えてしまったので、ちょっと復習も兼ねて QEMU on Windows を使う...が動かない...CPUがAMD64だと色々面倒がある模様。で、早々に諦めて、少しでも調べたことのある VirtualBox を試したところ動くようなのでこっちでやってみる。

リンク

- VirtualBoxで仮想マシン実行 - TAPアダプタを使ったLANへの接続
- [VirtualBox](#)
- [VirtualBox のダウンロード](#)
- [Ubuntu Japan Team](#)
- [Ubuntu とは](#)
- [Ubuntu デスクトップ版](#)

インストール

今回は、Windows Vista 上で VirtualBox を動かす、仮想マシンには [Ubuntu](#) の日本語ローカライズ版 をインストールしてみる。

VirtualBoxをインストールする

VirtualBox のサイトの URL <http://www.virtualbox.org/wiki/Downloads> より今回は VirtualBox 2.0.0 for Windows hosts x86 をダウンロードした。

インストールはいたって簡単。インストーラを起動して質問に答えるだけでよい。特に問題なく終了。

インストールOSのISOイメージ準備

日本語ローカライズド Desktop CD のダウンロード から [Ubuntu 8.04 LTS 版](#) をダウンロードした ISO イメージは CD 一枚分。昨今の物にしてはコンパクトだと思う。

仮想マシンを作成する

VirtualBox を起動すると、最初に登録をお願いするダイアログが出る。



VirtualBox 登録ダイアログ

ようこそ VirtualBox 登録フォームへ!

登録フォームに入力し、あなたが VirtualBox を使用していることを我々に知らせてください。VirtualBox のニュースと更新情報をお知らせします(任意)。

フルネーム(英字)とメールアドレスを下のフィールドに入力してください。注: Sun Microsystems は、この情報を製品使用の統計を収集し、VirtualBox ニュースレターを送信するためだけに使用します。Sun Microsystems が個人情報を第三者に渡すことはありません。個人情報の扱いに関する詳細情報は、VirtualBox マニュアルの "**Privacy Policy**" セクションまたは VirtualBox webサイトの "[Privacy Policy](#)" ページを参照してください。

名前(N)

メールアドレス(E)

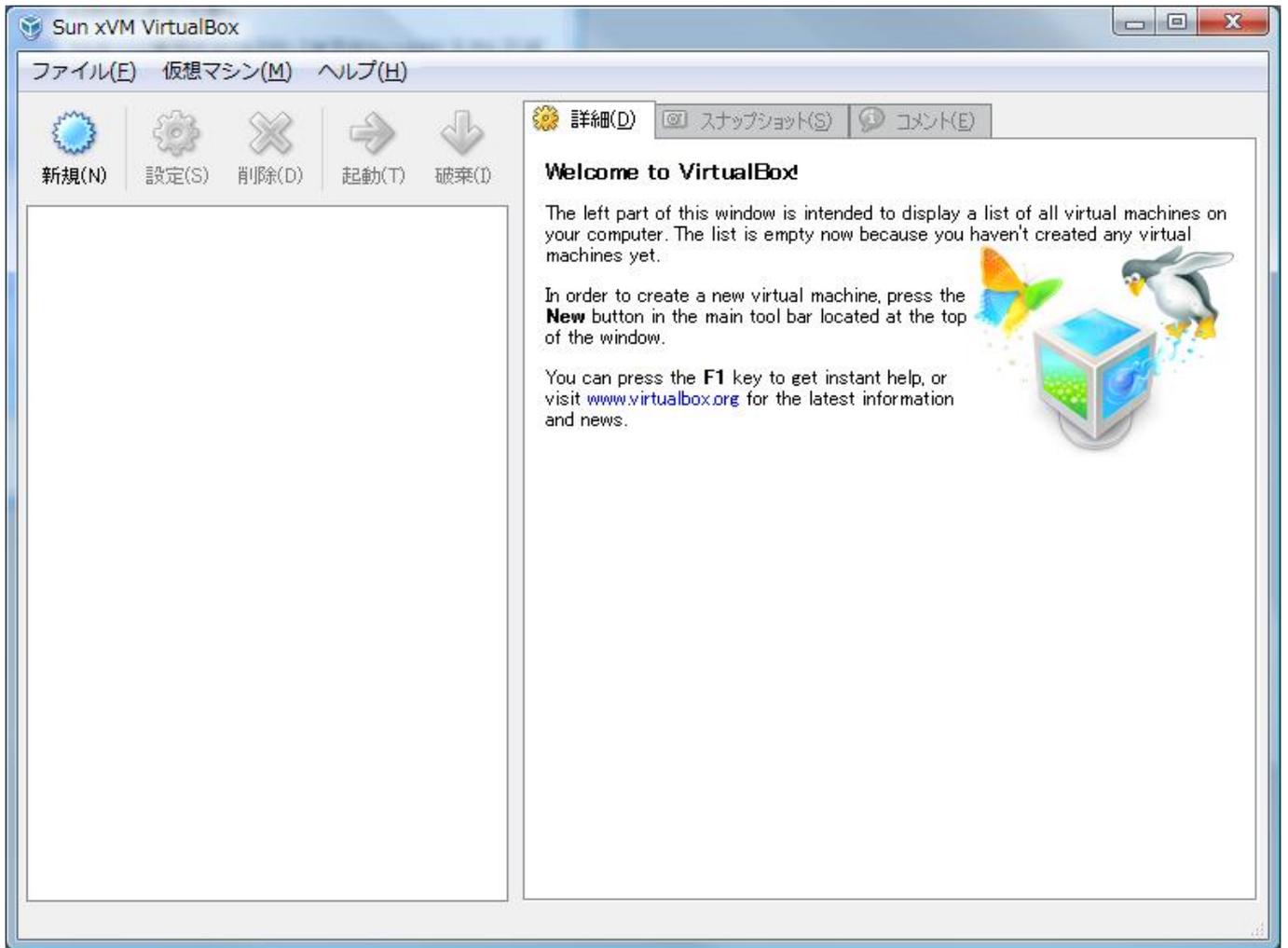
情報メール不要(P)

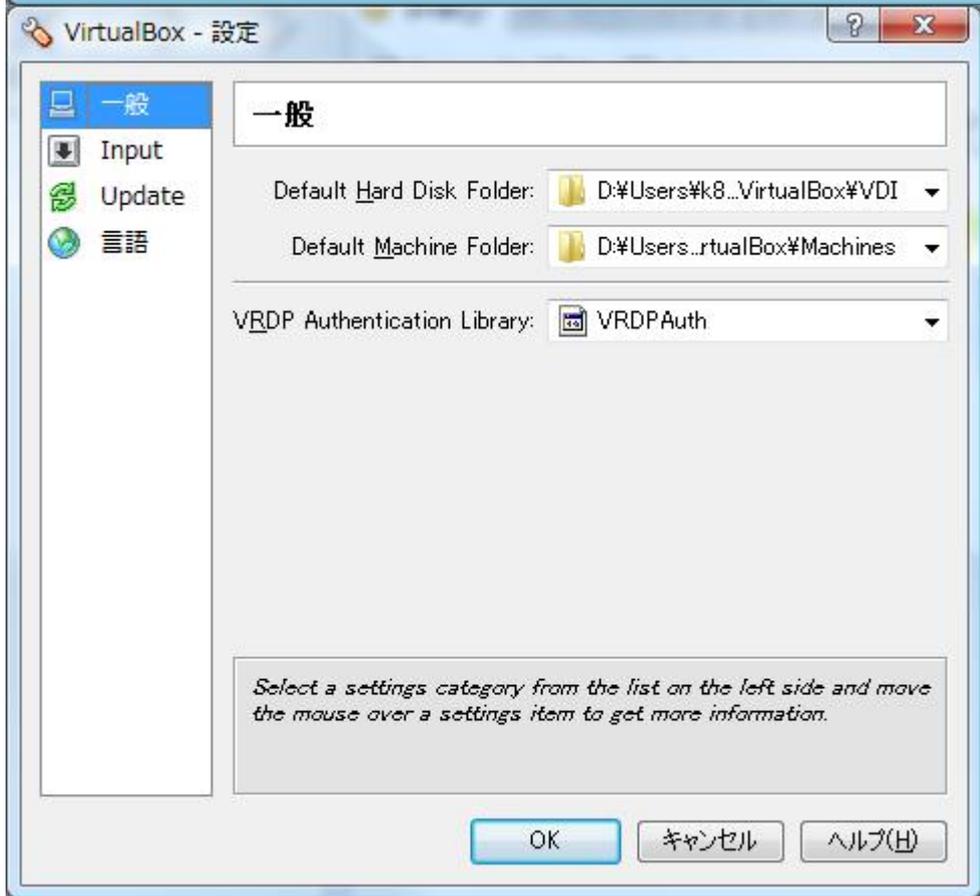
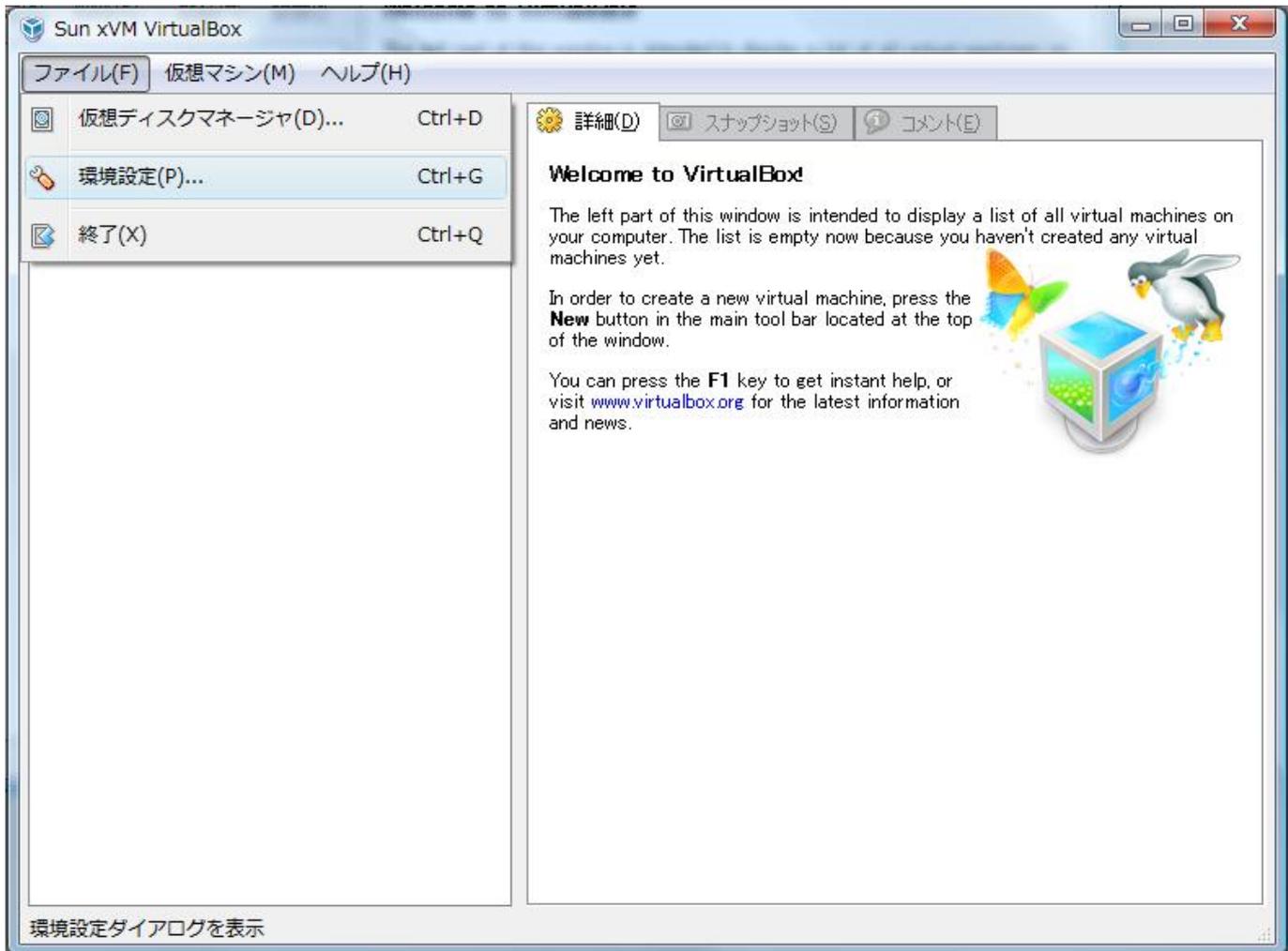
Confirm キャンセル

素直に登録しても良いと思う。どうするかは利用者次第。

環境設定

デフォルトの保存先を変更する。例ではCドライブからDドライブに変えている。ドライブの変更をしないならここは弄らなくともよい。



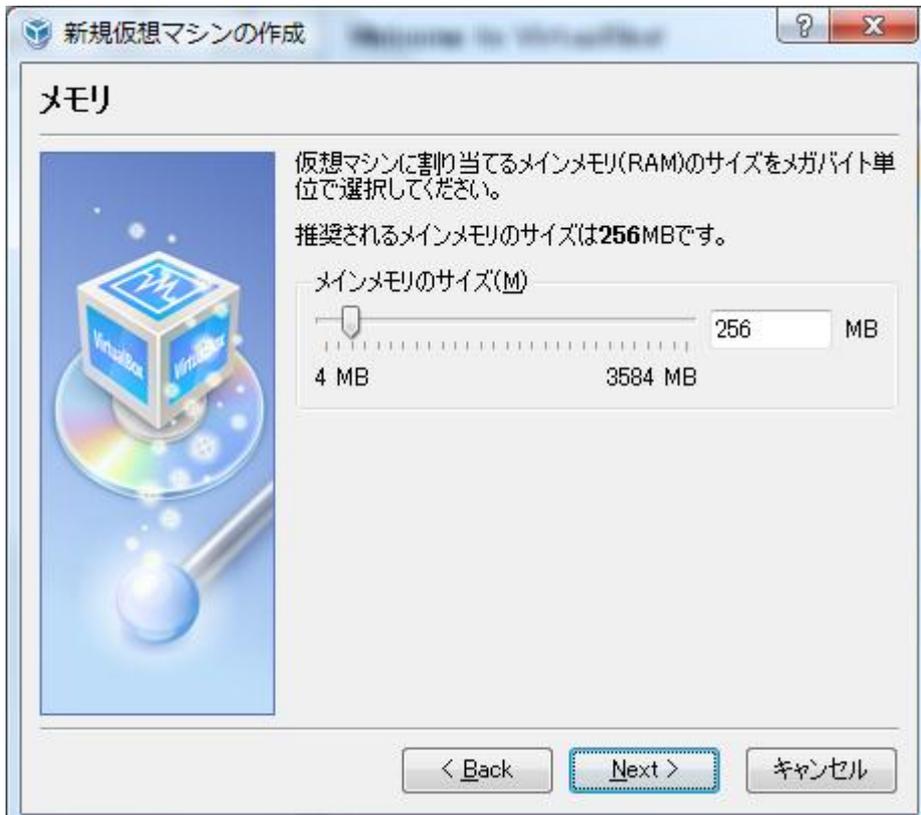


基本的に仮想ディスクはだんだんでかくなるので、ブートドライブ以外の場所に入れた方が良くと思う。

仮想マシン作成ウィザード

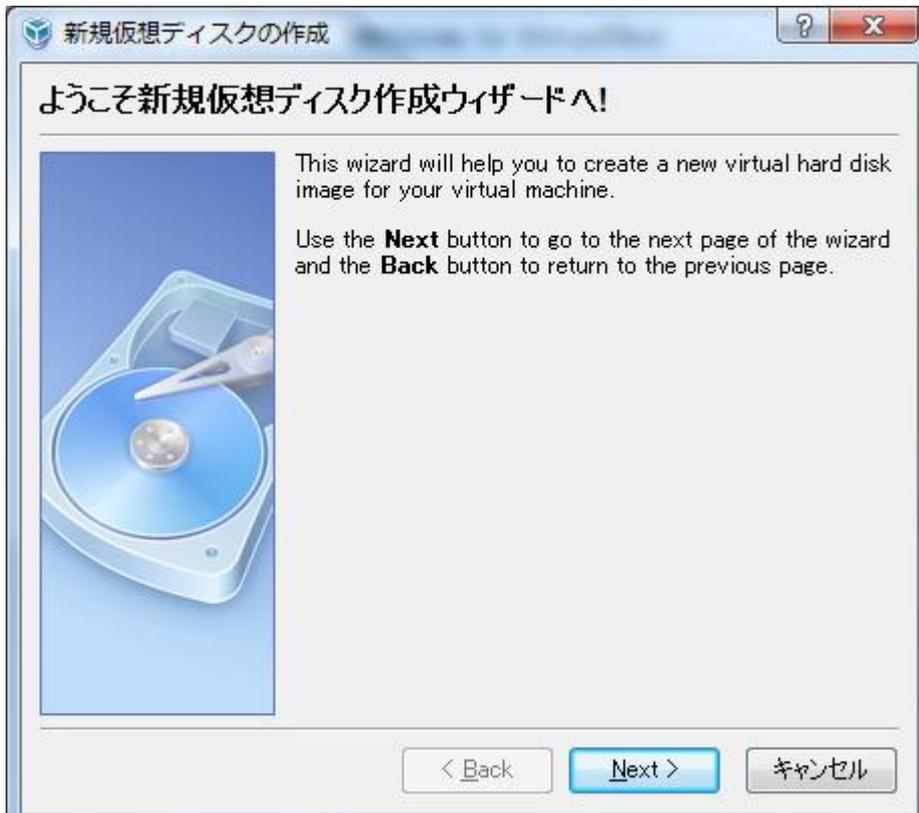
ここでは仮想マシンの定義とその仮想マシンで使うディスク、メモリ割り当てなどを定義する。





仮想ディスクマネージャでディスクを作っていない場合はここで『新規』ボタンを押して[[]]をインストールするハードディスクを定義する。

実態はファイル。今動いている[[]]のディスクをどうにかする訳ではないので誤解なく。



新規仮想ディスクの作成

仮想ディスクの場所とサイズ

Press the **Select** button to select the location and name of the file to store the virtual hard disk image or type a file name in the entry field.

イメージファイル名(I)
Ubuntu DeskTop

Select the size of the virtual hard disk image in megabytes. This size will be reported to the Guest OS as the size of the virtual hard disk.

イメージのサイズ(S)
800 GB

< Back Next > キャンセル

新規仮想ディスクの作成

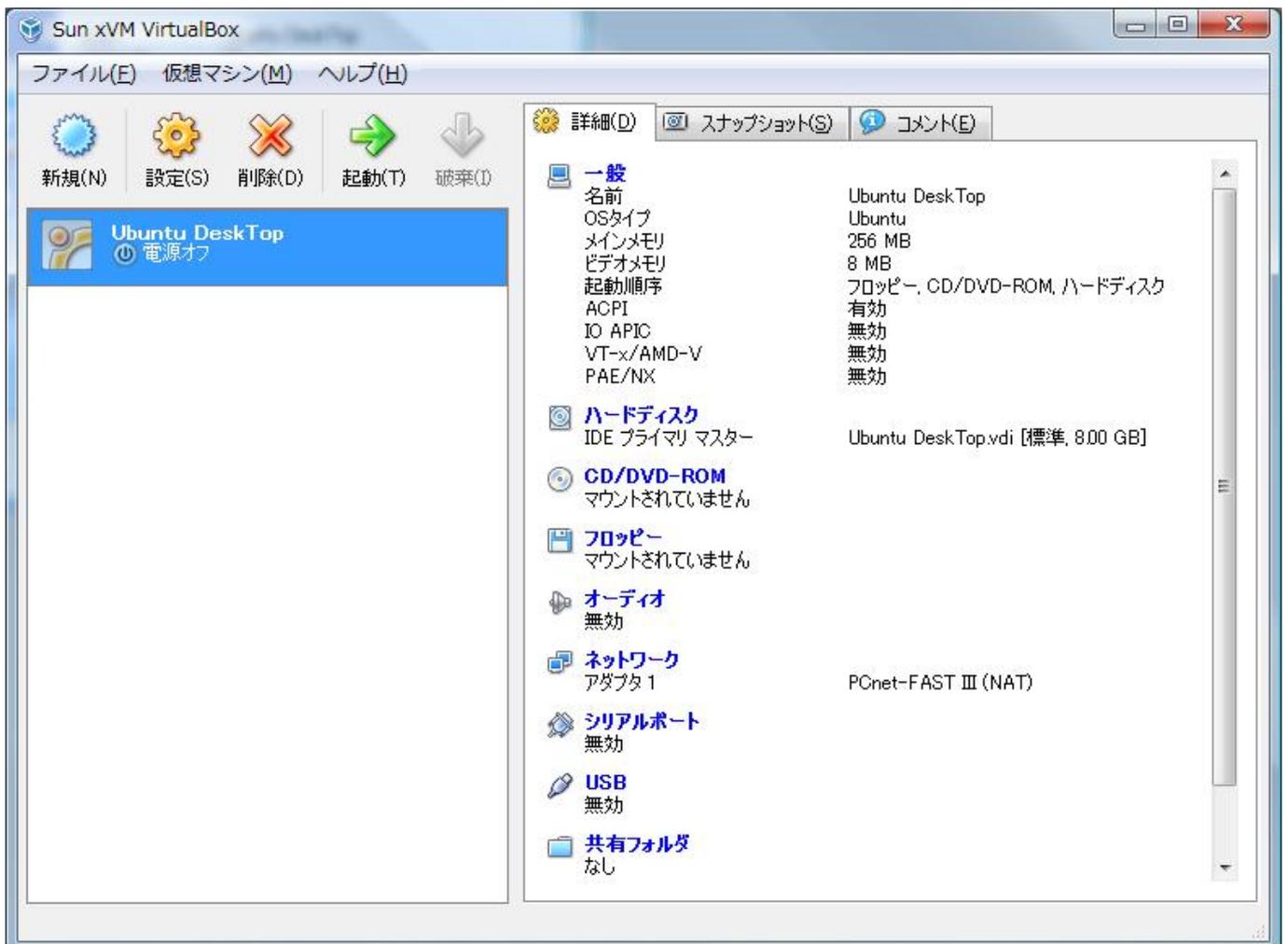
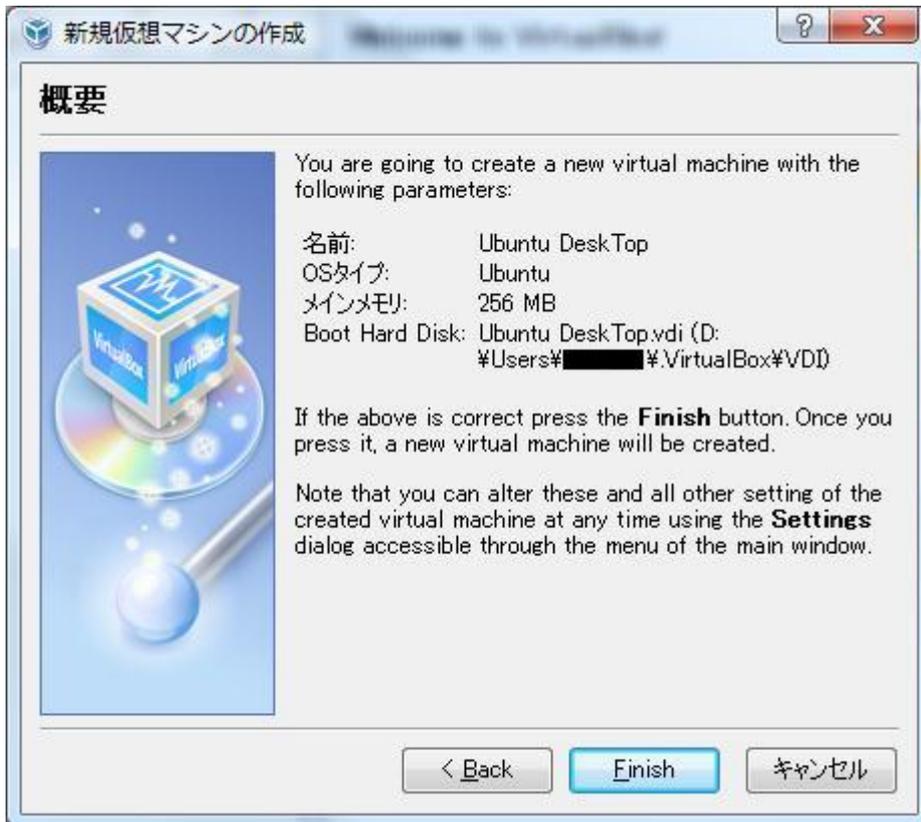
概要

新規仮想ハードディスクイメージは以下の設定で作成されます:

Type: 可変サイズのイメージ
場所: D:
 #Users# ████████ #VirtualBox#VDI#Ubuntu DeskTop
サイ 800 GB (8589934592 Bytes)
ズ:

If the above settings are correct, press the **Finish** button. Once you press it, a new hard disk image will be created.

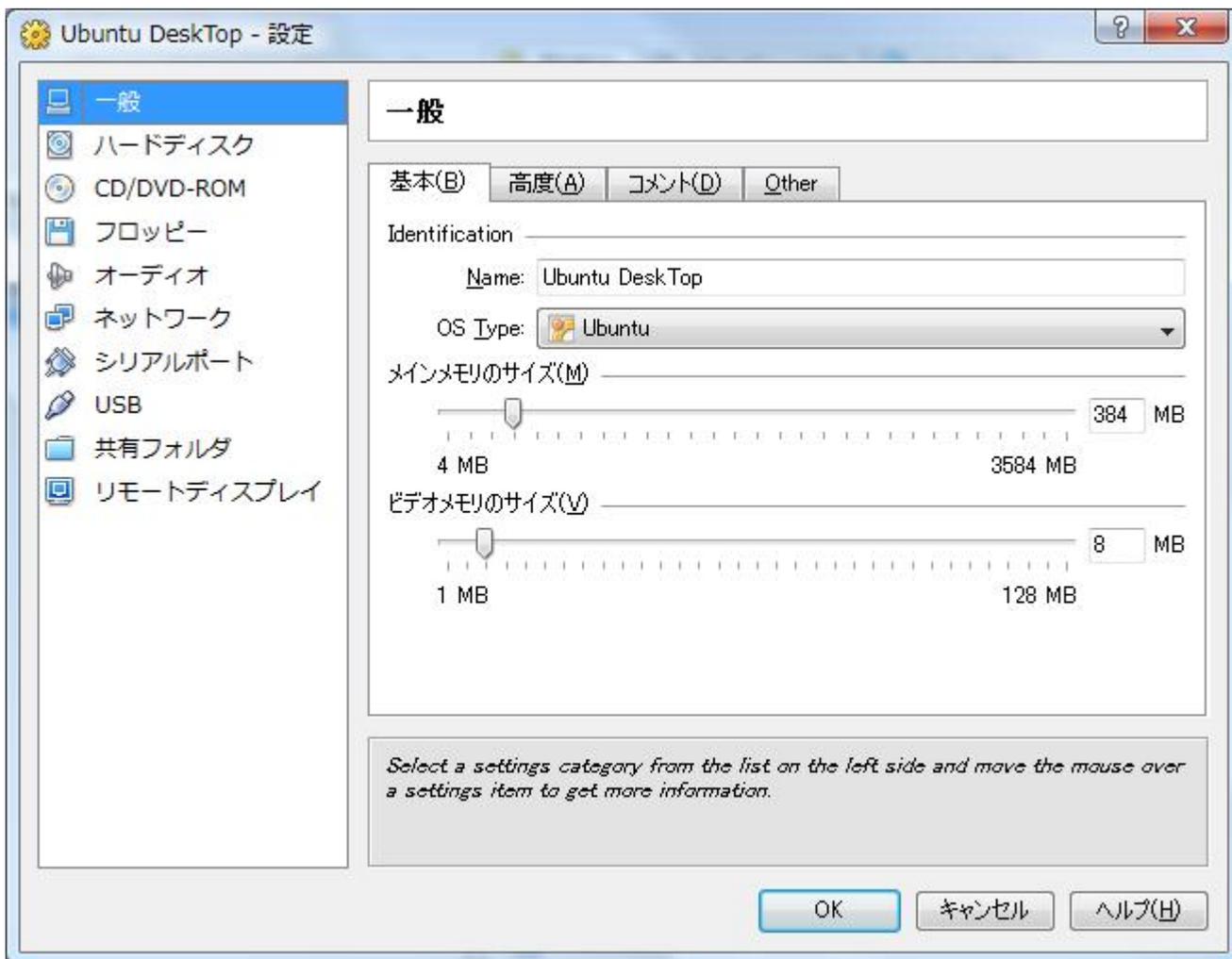
< Back Finish キャンセル



他の仮想マシンについても同じ手順で作成する。

割当てメモリの変更

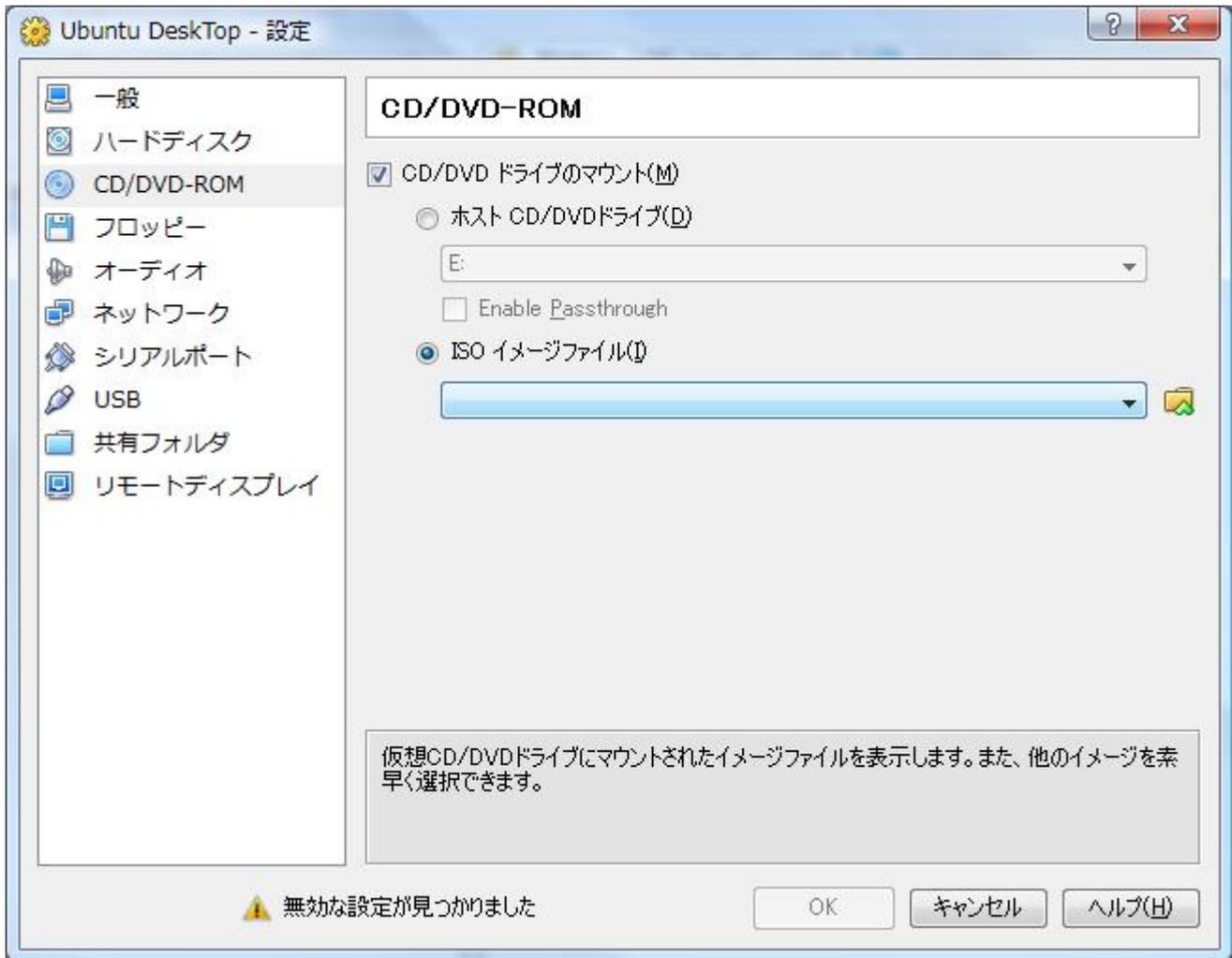
Ubuntuのサイトによれば、デスクトップ版のインストールにはメモリが 384MB要するという事なので、割り当てるメモリを変更する。作成したUbuntuの仮想マシンを選択し、『設定』アイコンをクリックすると、設定ダイアログが開くので、メモリを 384MBに変更する。

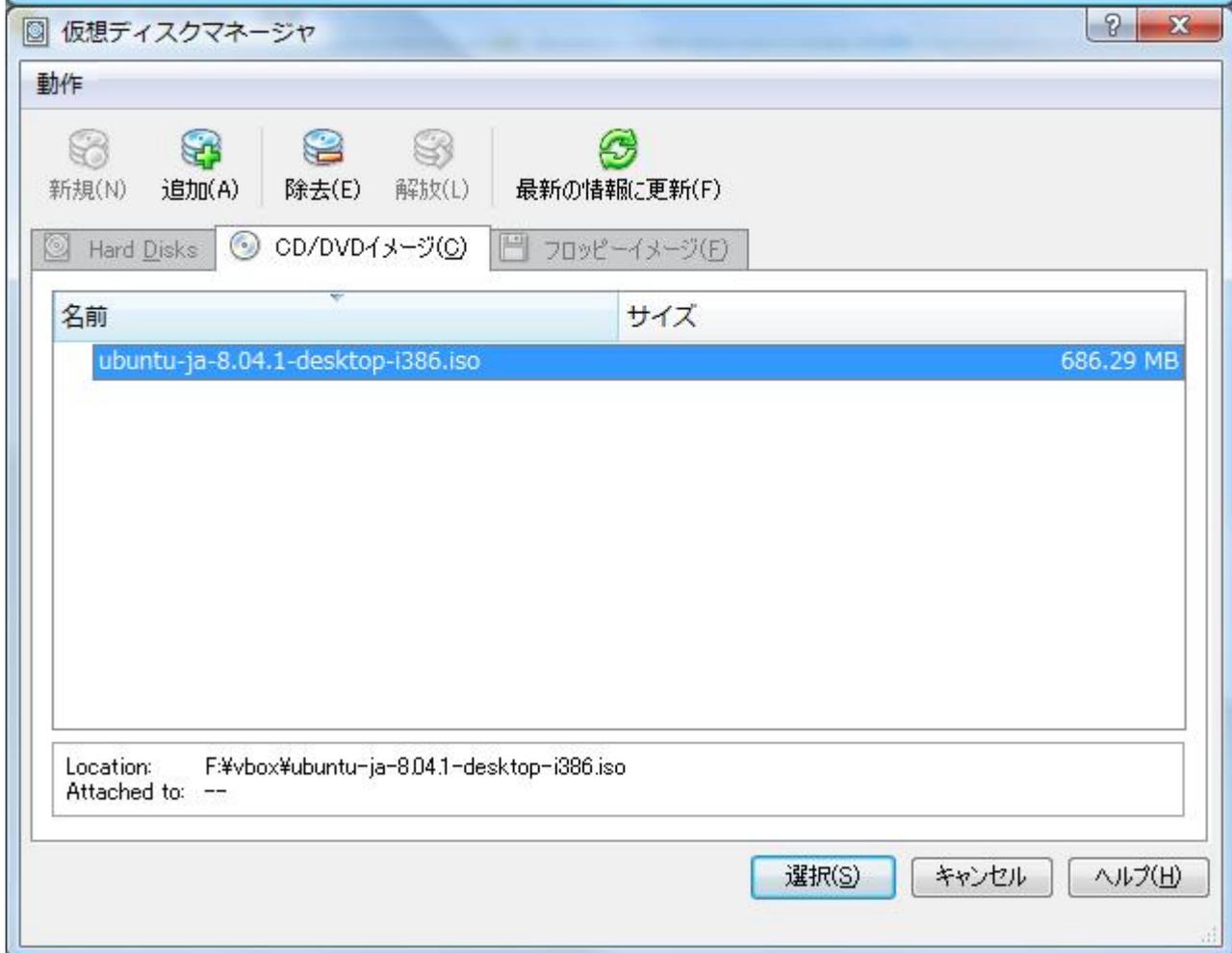
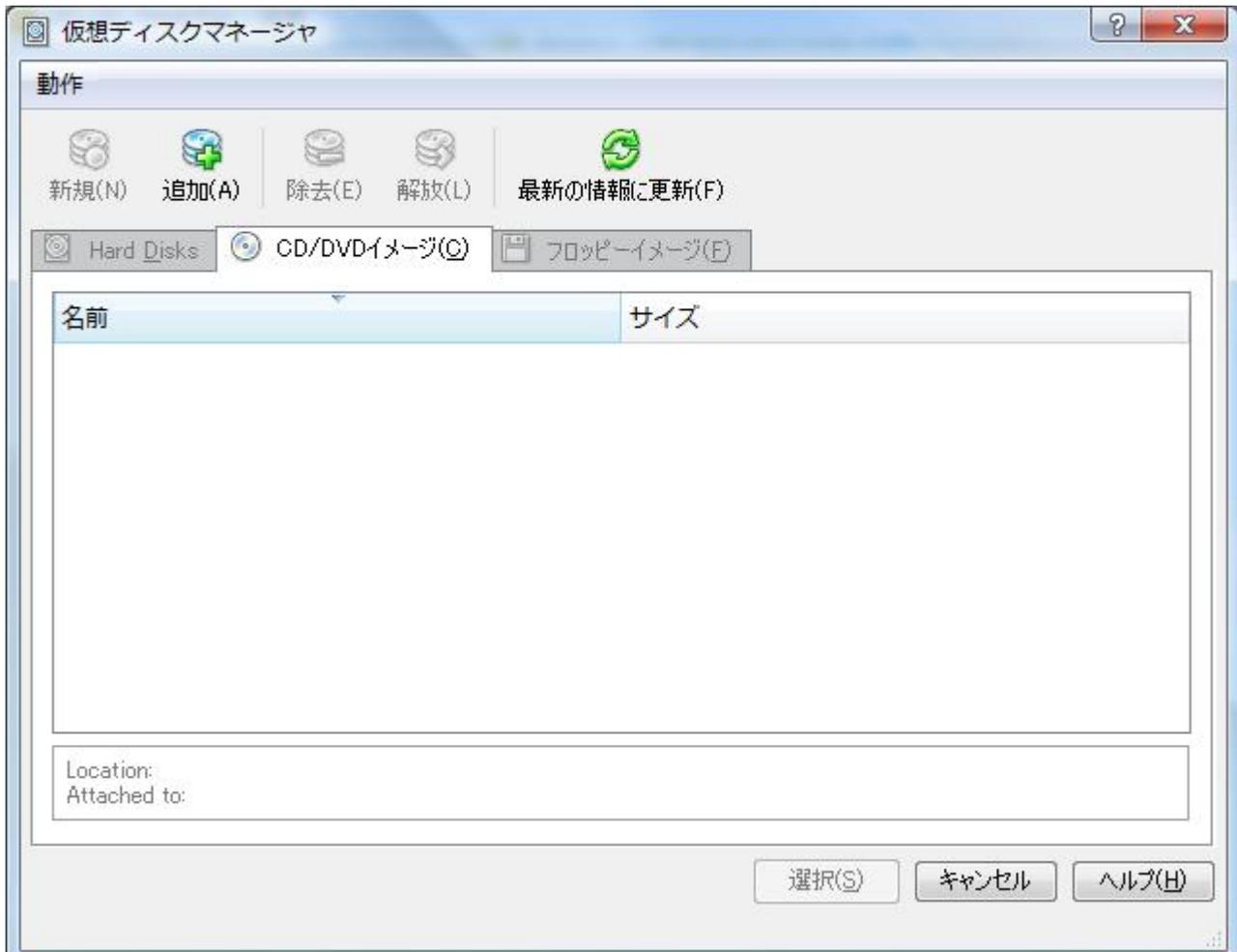


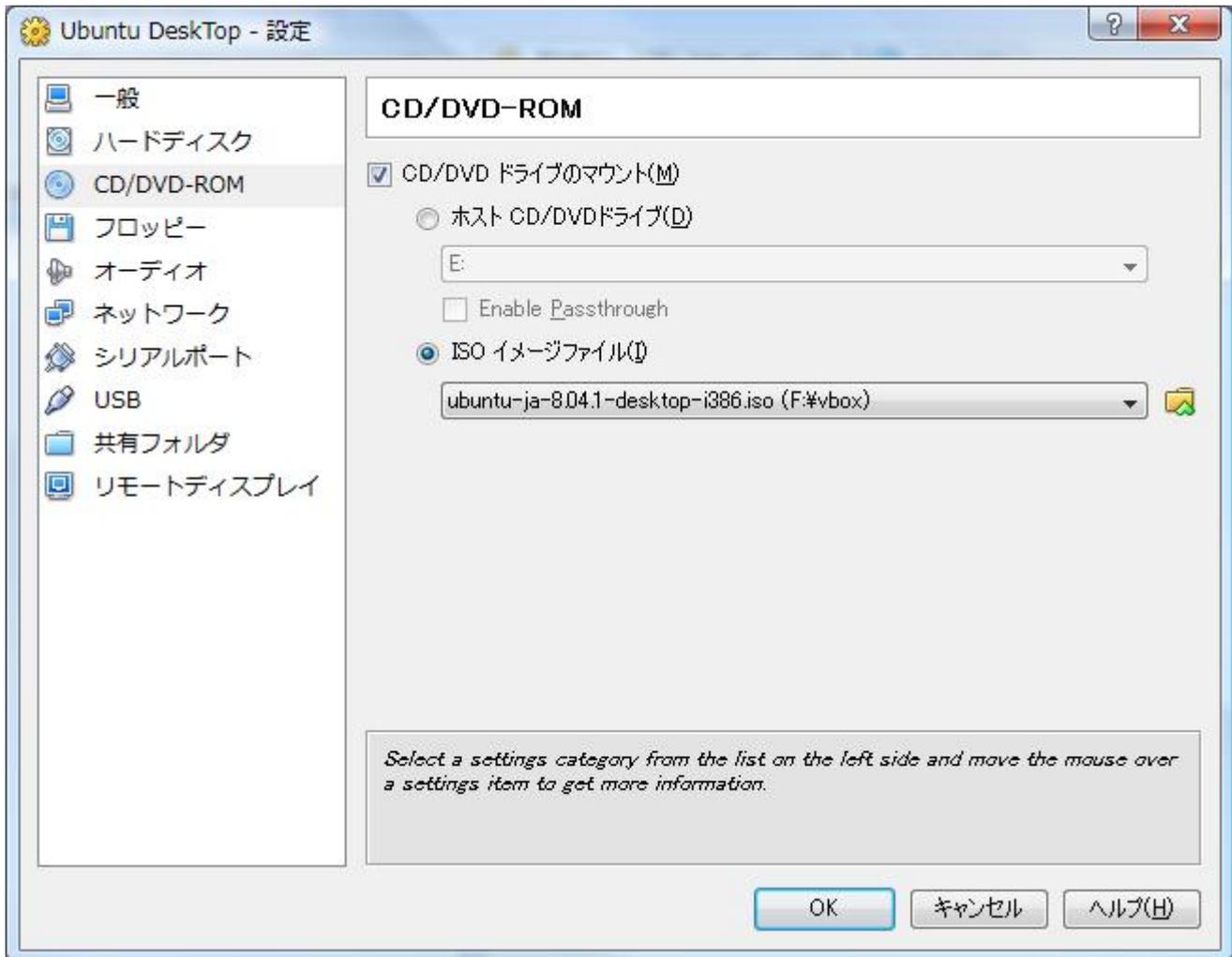
意味が解るなら他のパラメタも修正する。

仮想イメージの割り当て

先にダウンロードした Ubuntuの仮想イメージを仮想マシンのCD-ROMにマウントする。もしCD-ROMに焼いてあるのならそのCD-ROMをそのまま割り当てできる。







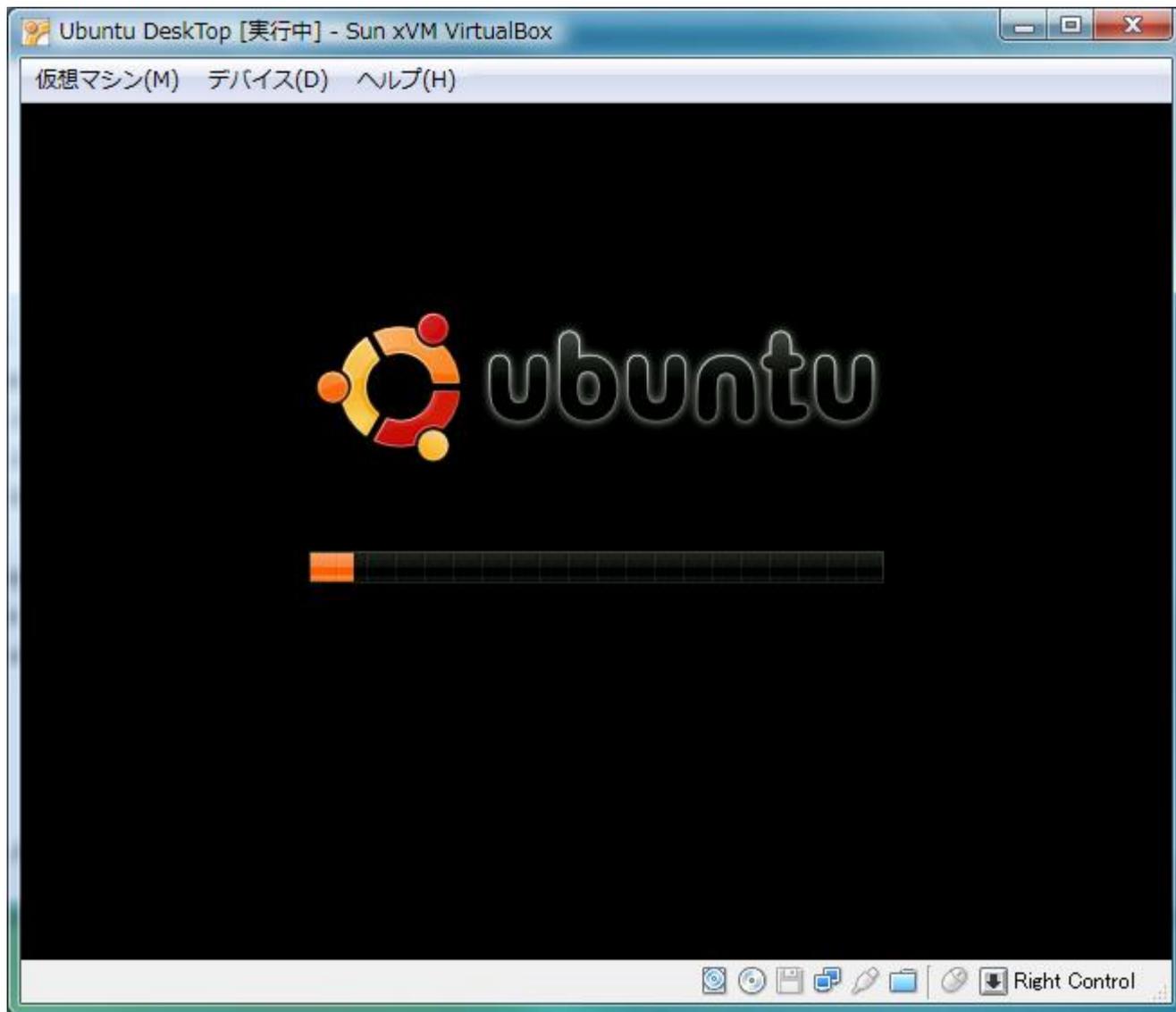
特にインストール[[]]をマウントするのであれば、ブート順序で[[]]が優先となるように変更しなくてはならない。

仮想マシンの実行

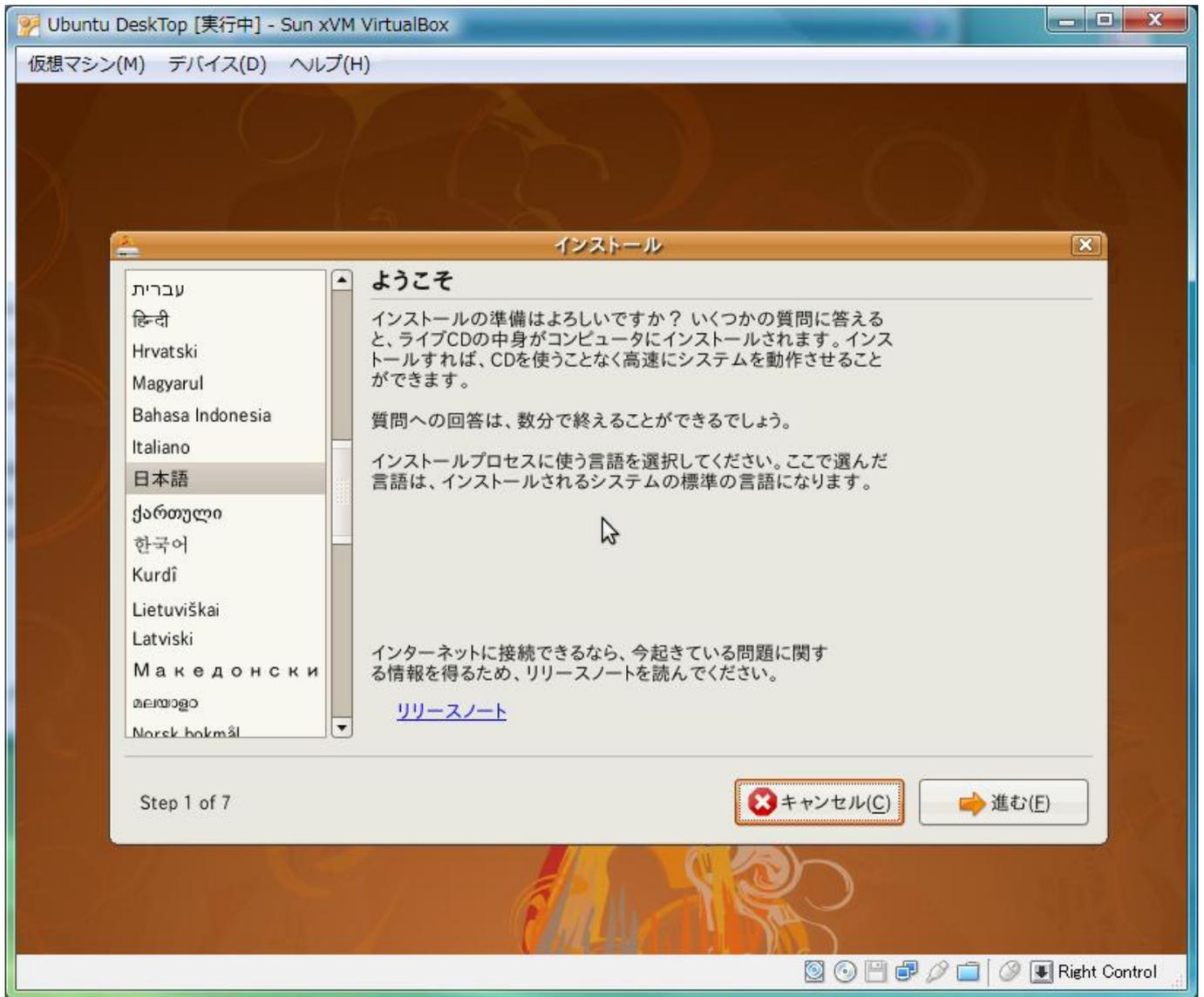
仮想マシンを選択して『起動』アイコンをクリックする[[]]CD-ROMからブートできればUbuntuのインストーラが起動する。

仮想マシンのウィンドウ内をクリックすると、以降のマウス操作、キーボード操作の結果が仮想マシンにキャプチャされる。この状態から抜けるには、キーボード右の[[]]キーを押す。



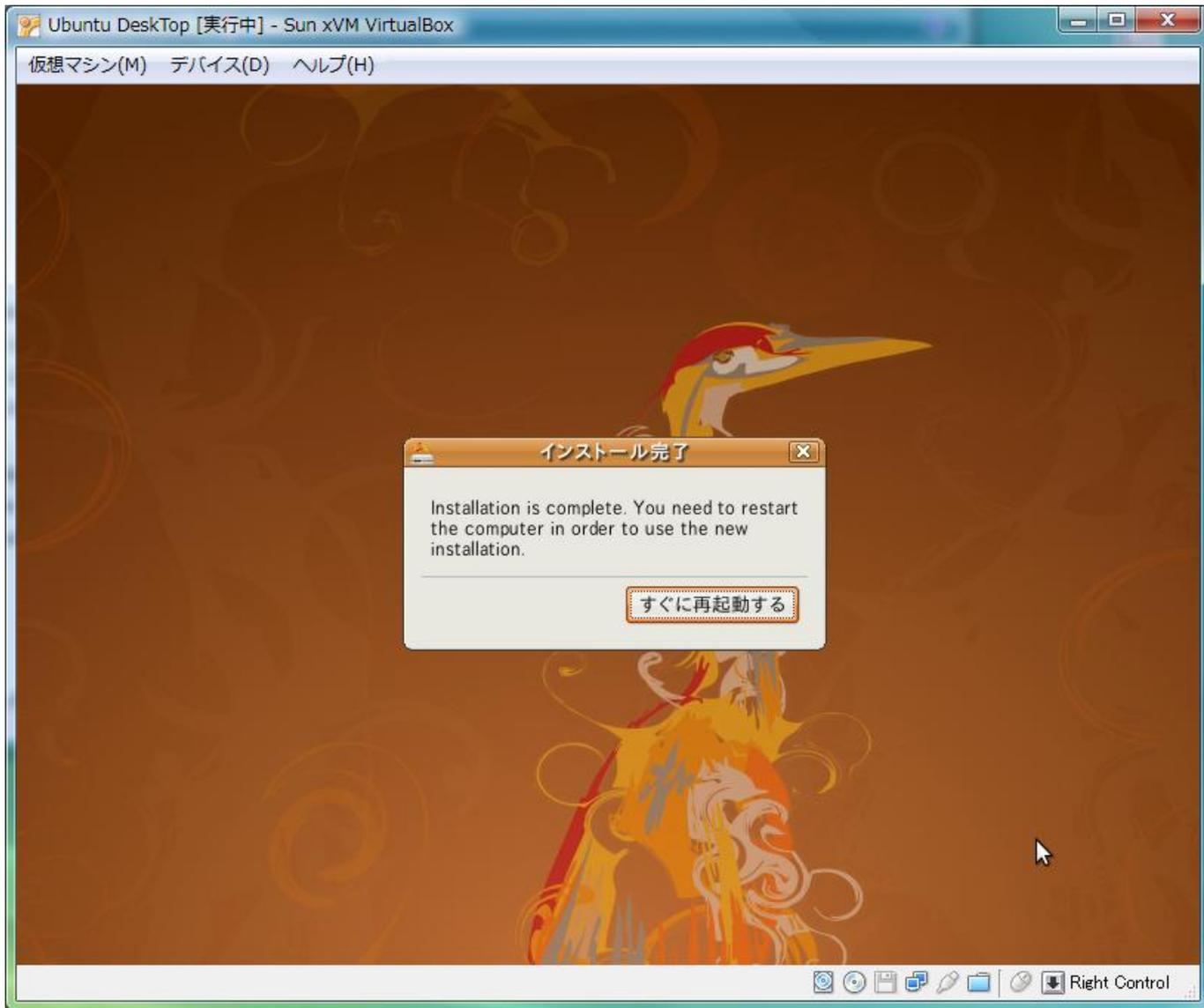


画面解像度が変わるとウィンドウのサイズも変わるので注意。





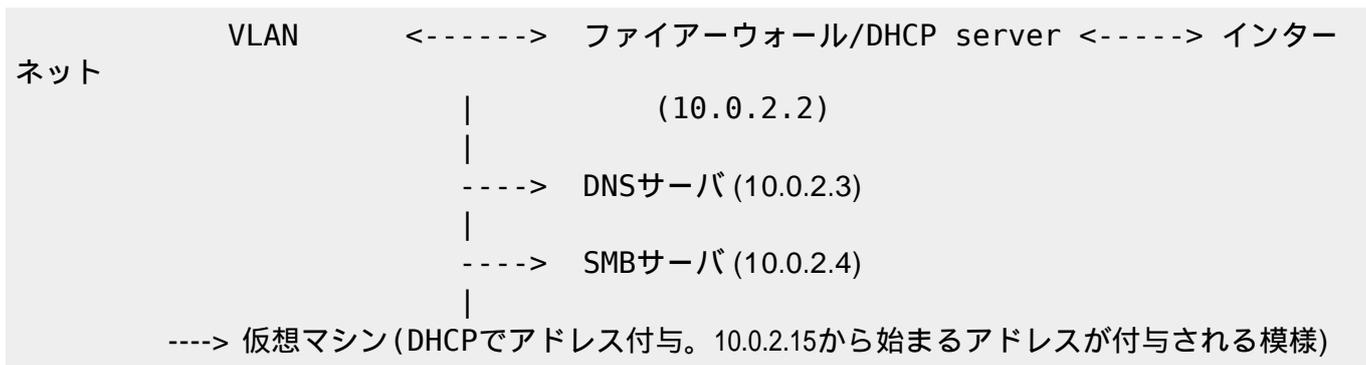




再起動の前に、メニューの『デバイス(D)』から『CD/DVD-ROMのマウント解除』を選択し、[X]をアンマウントしておく。
 アンマウントしないとまたインストーラが立ち上がることになる。

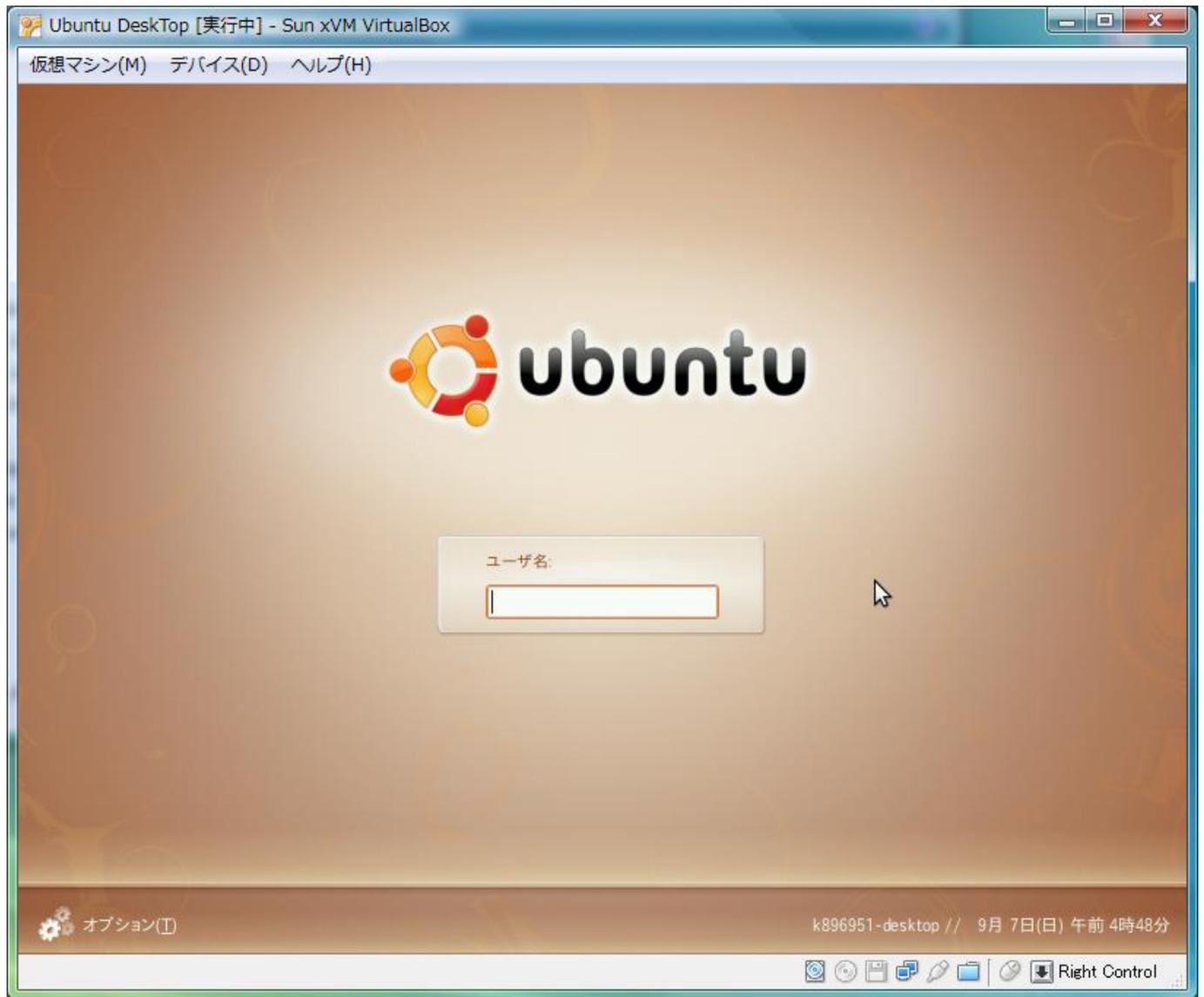
仮想マシンのネットワーク

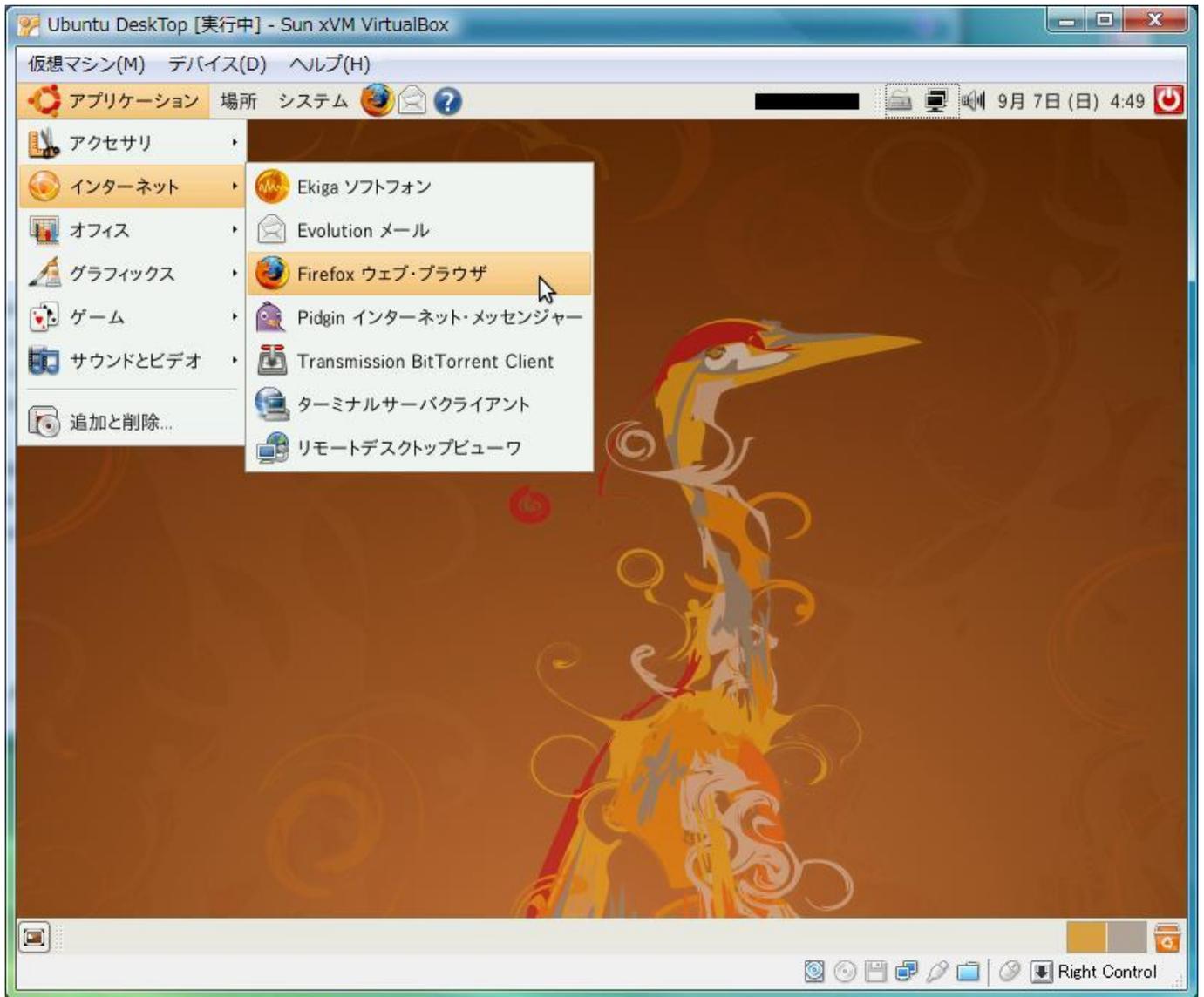
デフォルトでは、仮想マシンは仮想ネットワークに接続されており、構成が QEMU と同じ模様。

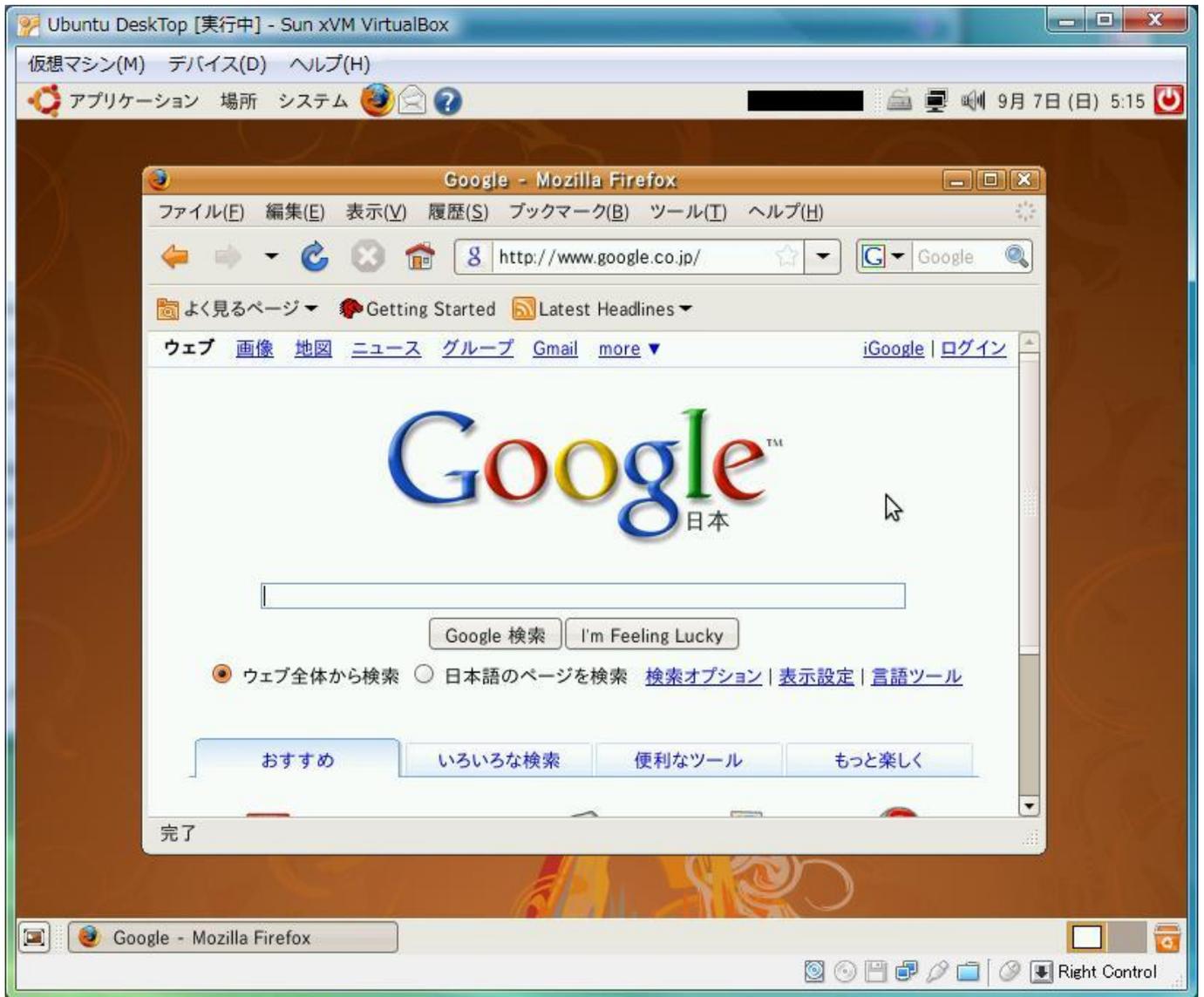


普通にクライアントとして使うには問題ないはず[Ubuntuは特に指定していない限り、[クライアント

トが働くので□□が起動した時点でもう□□アドレスが割り振られているはず。







システムのアップデートプログラムがダウンロードを行っている。
ブラウザで外部サイトを表示できている。

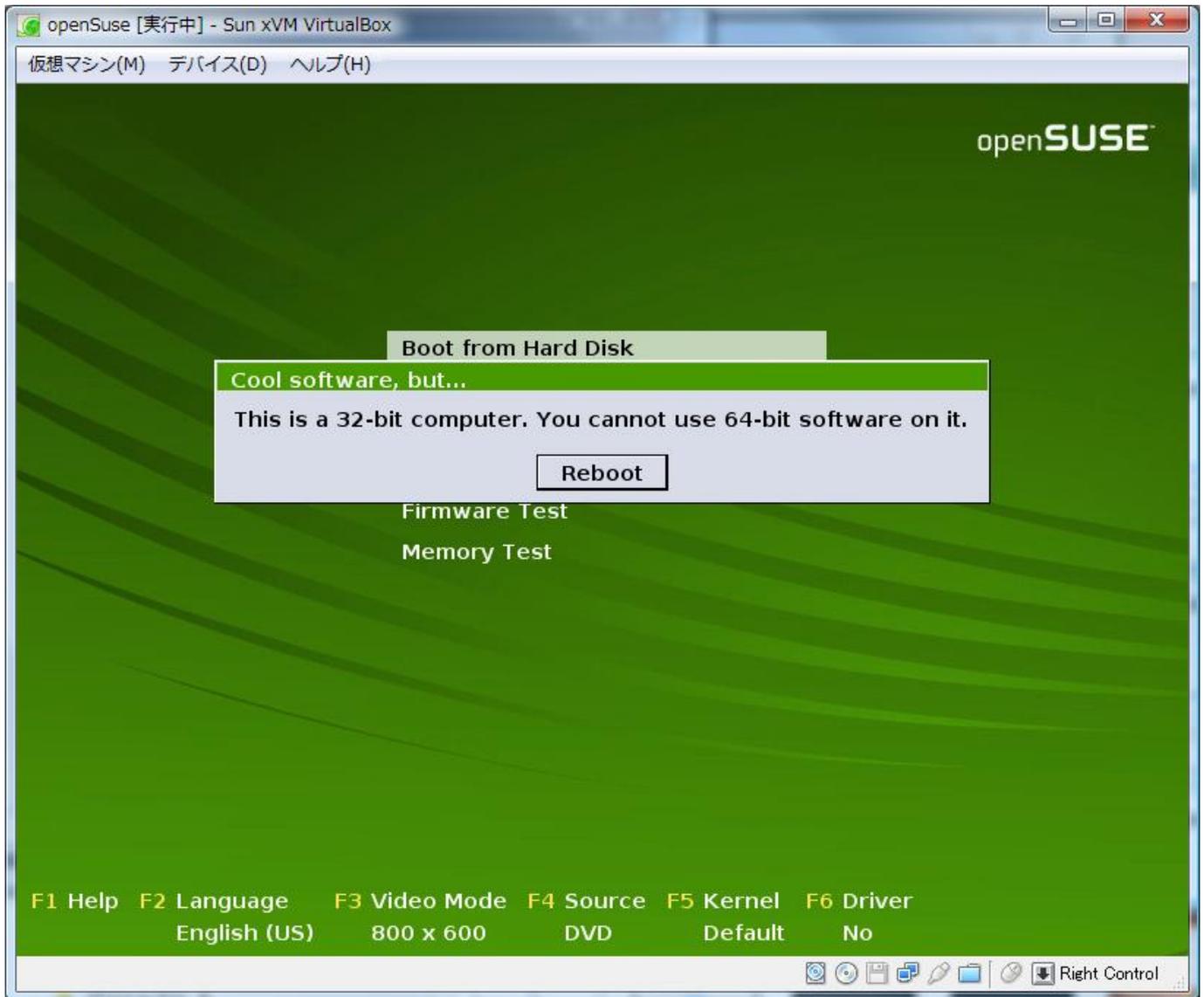
ちゃんと外部ネットワークへ出られるのを確認できた。

64bitは動くの？

注意

このドキュメント作成当時の動きませんでした。最近の版では64bitのVMも作成できます。お試しください。

ためしに動かしたがさすがに阻まれた。



OpenSUSE 10.3 x64 はインストーラがきちんと弾いた。

その他

解像度を上げたり、その他にもいじるべきところはあるそう。

[エミュレータ](#), [ubuntu](#), [VirtualBox](#), [windows](#), [技術資料](#)

From:

<https://wiki.hgotoh.jp/> - 努力したWiki

Permanent link:

<https://wiki.hgotoh.jp/documents/windows/vm/vm-002-01>

Last update: **2024/11/01 16:25**

